

令和3年5月吉日

各支部事務局
高等学校柔道部
大学柔道部
警察・刑務所・JR様

秋田県柔道連盟
会長 遠藤 純



令和3年度（第72回）県民体育大会の大会要項・参加申込書の送付について

平素 当連盟の諸事業に対し多大な御理解と御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、標記大会を別紙要項のとおり開催することになりました。

つきましては、申込締め切り日までにとりまとめの上、メールまたは郵送にてお申込み下さいますようお願いいたします。

同封書類

1. 大会要項
2. 参加申込書
3. 「ふるさと選手制度」使用手続きについて
4. ふるさと選手制度使用確認・申請書
5. 参加資格確認書の記入について
6. 参加資格確認書
7. 健康観察票
8. 感染防止対策について

〒010-0974 秋田県秋田市八橋運動公園1-5
秋田県スポーツ科学センター内
秋田県柔道連盟 事務局
TEL 018-874-9790 FAX 018-874-9793
Eメール info@akita-judo-federation.com

令和３年度（第 72 回）県民体育大会柔道競技実施要項

1. 主催 秋田県教育委員会 （公財）秋田県体育協会

2. 主管 秋田県柔道連盟

3. 日時 令和３年 7 月 4 日（日）

非公式計量	8：00～8：30
公式計量	8：30～9：00
審判・監督会議	9：00～
競技開始	10：00～ 成年男子 女子・少年男子

4. 会場 秋田県立武道館 2 階 柔道場

5. 参加資格

（１）日本国籍を有する者であることとするが、次の者については、日本国籍を有しない者であっても、大会に参加することができる。

①少年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

ア 学校教育法第 1 条に規定する学校に在籍する学生又は生徒で 1 年以上在籍していること。

イ 在留資格のうち「留学」又は「家族滞在」（中学 3 年）に該当していること。

②成年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

ア 少年種別年齢域にあった時点において前号①に該当していた者であること。

イ 在留資格のうち「留学」に該当しないこと。

（２）第 74 回又は第 75 回国体（都道府県大会及びブロック大会を含む）において、選手及び監督として参加した者は、次の場合を除き、第 74 回又は第 75 回国体と異なる都道府県から参加することはできない。

①「学校教育法」第 1 条に規定する学校を卒業した者

②結婚及び離婚に係わる者

③ふるさと選手制度を活用する者（成年種別）

④一家転住に係る者（少年種別）

（３）全日本柔道連盟に登録しており、登録した都道府県からのみ参加できる。

（４）成年男子及び女子種目に「ふるさと選手登録制度」で参加する者は、登録を行った都道府県にかかわらず参加できる。

（５）選手は、計量に合格すること。ただし、無差別に出場する選手は計量を行わない。

（６）選手の年齢基準

①成年種別に参加する者は、平成 15 年 4 月 1 日以前に生まれた者とする。

②少年種別に参加する者は、平成 15 年 4 月 2 日から平成 18 年 4 月 1 日までに生まれた者とする。

◎「居住地を示す現住所」、「勤務地」、「学校教育法第 1 条に規定する学校の所在地」のいずれかから参加する場合は、令和 3 年 4 月 30 日以前から引き続き当該地に、それぞれ居住、勤務又は通学していなければならない。

6. 競技規則

- (1) 最新の国際柔道連盟試合審判規定で行う。
- (2) 勝敗の判定基準は、「一本」「技あり」「僅差」とする。「僅差」とは、双方の選手間に技による評価がない、または同等の場合、「指導」差が2以上あった場合に少ない選手を「僅差」による優勢勝ちとする。得点差がない場合は、延長戦（ゴールデンスコア）により勝敗を決する。延長戦においては、「技あり」以上もしくは、指導差が出た時点で勝敗を決する。
- (3) 柔道衣は、全柔連柔道衣規格に適合した柔道衣（上衣、下穿きはIJF赤ラベル及び「JU」から始まる赤文字のみ可、帯はIJF赤、青ラベル及び「JU」から始まる赤文字、黒文字全て可）とする。
- (4) 柔道衣（背中）には、必ず下記の要領でゼッケンを縫い付ける。
 - ①サイズは横30cm～35cm、縦25cm～30cmとする。
 - ②上部2/3に苗字、下部1/3に所属を記載すること。
 - ③書体は楷書で、ゴシック体または明朝体とし、男子は黒色、女子は濃赤色。
 - ④縫い付けの位置は後襟から5～10cm下部とし、対角線にも強い糸で縫い付けること。

7. 競技方法

競技は体重別による

(1) 少年男子

(7) 無差別 (i) 90kg超 100kg以下級 (u) 73kg超 90kg以下級 (l) 60kg超 73kg以下級 (o) 60kg以下級

(2) 成年男子

(7) 無差別 (i) 90kg超級 (u) 73kg超 90kg以下級 (l) 60kg超 73kg以下級 (o) 60kg以下級

(3) 女子

(7) 無差別（少年成年混合） (i) 63kg超 78kg以下級（少年） (u) 52kg超 63kg以下級（少年）

(l) 57kg以下級（成年） (o) 52kg以下級（少年）

8. 参加申込

(1) 申込締切

①令和3年6月17日（木）必着 郵送またはメールにて受け付ける。期日厳守のこと。

②組合せ会議 令和3年6月18日（金）10:00～ 秋田県立スポーツ科学センター 会議室

(2) 申込要領

別紙様式によること。

ふるさと制度を活用する場合は、「ふるさと選手制度使用確認・申請書」をあわせて提出すること。

(3) 申込先

〒010-0974 秋田市八橋運動公園 1-5 秋田県スポーツ科学センター内 秋田県柔道連盟

TEL: 018-874-9790 mail: info@akita-judo-federation.com

(4) 参加料

参加者1名につき、2,000円（保険料を含む）を大会当日徴収する。

参加料は現金とし、印紙、切手の代用は認めない。

(5) 参加料の返金

返金しない。ただし、組合せ前に参加取消しの届があった場合はその限りではない。

(6) 参加選手のスポーツ傷害保険については、一括して秋田県柔道連盟が加入する。

大会中の不慮の負傷及び事故については、応急処置を施しますが、それ以外の責任等については負わないものとします。

9. 令和3年東北総体及び国体出場選手選考について

東北総体及び国体の出場選手については、県体、その他各種大会の成績等を総合して、県柔道連盟強化委員会で決定する。(二次選考会を行う場合もある)

10. そ の 他

(1) 開・閉会式は行わない。表彰については、1位と2位の選手へ賞状を授与する。

(2) 皮膚真菌症（トングランス感染症）については、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。もし、選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。

(3) 脳震盪対応について、選手及び指導者は以下の事項を遵守すること。

①大会1か月以内に脳震盪を受傷した選手は、脳神経外科医の診察を受け、出場許可を得ること。

②大会中、脳震盪を受傷した者は継続して当該大会に出場することは認めない。(受傷した時点で必ず専門医を受診すること。)

③練習再開に際しては、脳神経外科の診察を受け、許可を得ること。

④上記のいずれかに該当する選手がいる場合、指導者は必ず大会事務局へ事故報告書を提出すること。

(4) 試合が終了した選手は、速やかに退館すること。

(5) 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策については、別途定める。参加者は、主催者が定める新型コロナウイルス感染症の感染予防措置を遵守すること。なお、試合中に感染予防措置を遵守できない参加者には、参加の取り消しや途中退場を求めることがあり得る。

『 ふるさと選手制度 』 使用手続きについて

(公財) 秋田県スポーツ協会

ふるさと登録・申請に係る個人情報の取り扱いについて

標記の個人情報は、秋田県スポーツ協会を経て開催県実行委員会、当該中央競技団体、当該会場地
市町村実行委員会、日本スポーツ協会において、参加資格の確認をはじめとする大会運営業務のため
に使用します。

～ふるさと選手登録までの流れ～

① 使用申請する選手が「ふるさと選手制度使用確認・申請書」を各競技団体へ提出

1. 下記の手順により、様式をダウンロードしてください。

「秋田県スポーツ協会HP→資料・様式ダウンロード一覧→ふるさと選手制度使用確認・申請書」

2. 競技者本人が記載し、競技団体へ提出してください。

競技団体は取りまとめのうえ、補足等がある場合は追記し、東北総体申込み時（ストレートの
競技及び種別は国体申込み時）に秋田県スポーツ協会競技力向上対策課に原本を提出してくだ
さい。

※競技団体も1部コピーを保管しておくこと

② WEB上での登録（競技団体担当者が行う）

「国民体育大会参加申込システム」からの登録となります。ふるさと登録対象者全てを入力して
ください。ふるさと登録の入力が終了しないと大会参加申込の入力ができません。

《 ふるさと選手制度の留意点 》

☆ ふるさと選手登録は国体予選会に出場した時点で、毎年手続きをしていただきます。

☆ ふるさと選手登録は秋田県内の小学校、中学校又は高等学校を卒業したことが条件です。

※JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置有り。

☆ 1度、秋田県で「ふるさと選手登録」をすると、他の都道府県で登録することはできません。

☆ ふるさと選手制度の使用は、原則1回につき2年以上継続することとし、登録出来る回数は2回までです。

【例】「使用回数の解釈」

回 (年)		63回 (2008)	64回 (2009)	65回 (2010)	66回 (2011)	67回 (2012)	68回 (2013)	69回 (2014)	70回 (2015)	71回 (2016)	72回 (2017)	73回 (2018)	74回 (2019)	75回 (2020)	76回 (2021)
国体開催県	・ 夏 季	大分	新潟	千葉	山口	岐阜	東京	長崎	和歌山	岩手	愛媛	福井	茨城	鹿児島	三重
	・ スキー	長野	新潟	北海道	秋田	岐阜	秋田	山形	群馬	岩手	長野	新潟	北海道	富山	秋田
	・ スケート	長野	青森	北海道	青森	愛知 岐阜	東京 福島	栃木	群馬	岩手	長野	山梨	北海道	青森	愛知 岐阜
東北総体開催県		山形	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	岩手	青森	秋田	宮城	福島	山形	山形
ケース①		□	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
ケース②		□	☑	☑	□	□	□	□	□	□	☑	☑	☑	☑	☑
ケース③		□	☑	□	☑	□	☑	□	☑	□	☑	□	☑	☑	☑

←初 回	13回連続使用
←2 回目	5回連続使用
←初 回	8回連続使用

←初 回 13回連続使用

←2回目 5回連続使用

←初 回 8回連続使用

令和3年度 国体及び東北総体ふるさと選手制度使用確認・申請書

☆ 国体・東北総体に出場する場合、予選会からの提出が必要です ☆

～ ～ ～ ～ ～ 以下、本人直筆 ～ ～ ～ ～ ～

秋 田 県 ス ポ ー ツ 協 会 会 長 様

届出日： 令和 年 月 日

国民体育大会ふるさと選手制度により、私の「ふるさと」を【秋田県】として、
第76回国民体育大会(予選会含む)において、下記内容のとおり使用申請致します。
なお、「ふるさと選手制度」の使用にあたっては、留意事項を遵守致します。

フリガナ		[性別] 男 女 ※いずれかに○印
氏 名	旧 姓 ()	[生年月日] 西暦 年 月 日 生まれ

1. 参加競技名(種別及び種目名を含む) ※種別の欄はどちらかに○をしてください。

競技:	種別: 成年男子 成年女子	種目:
-----	---------------	-----

2. 現住所(現在お住まいの住所です。県外在住の選手は実家の住所等を記入しないでください。)

〒	—	自宅電話番号: — —
		携帯電話番号: — —

3. 現在の学校又は勤務先

学校名(学年)	(年)
勤務先	

4. 「ふるさと」に関する確認事項 ※ふるさと選手制度の使用は、原則1回につき2年以上連続することとし、登録出来る回数は2回までです。

- (1) 卒業学校名(秋田県の小学校、中学校又は高等学校) ※専修学校卒業者は卒業中学校名を記入してください。

昭・平・令 年 月 卒業

※〇〇市立、〇〇県立から学校名を正確に記入してください。

- (2) ふるさと選手制度を使用した国体・国体予選会の確認

過去にふるさと選手制度を使用した大会に☑してください。 ※東北総体に関しては競技によって開催県が異なるので各自注意すること。

回 (年)	63回 (2008)	64回 (2009)	65回 (2010)	66回 (2011)	67回 (2012)	68回 (2013)	69回 (2014)	70回 (2015)	71回 (2016)	72回 (2017)	73回 (2018)	74回 (2019)	75回 (2020)	76回 (2021)
・ 夏 季	大分	新潟	千葉	山口	岐阜	東京	長崎	和歌山	岩手	愛媛	福井	茨城	鹿児島	三重
・ ス キー	長野	新潟	北海道	秋田	岐阜	秋田	山形	群馬	岩手	長野	新潟	北海道	富山	秋田
・ スケート	長野	青森	北海道	青森	愛知 岐阜	東京 福島	栃木	群馬	岩手	長野	山梨	北海道	青森	愛知 岐阜
東北総体開催県	山形	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	岩手	青森	秋田	宮城	福島	山形	山形
ふるさと選手制度を使用した年に☑	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

注: 参加申込責任者も使用履歴を必ずチェックしてください

ふるさと選手制度使用に係る留意事項

- 「ふるさと」は、卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県とする。*JOCエリートアカデミー生は特例有り。
- 「ふるさと選手制度」を活用し参加を希望する選手は、予め所定の方法により「ふるさと」を登録しなければならない。
なお、一度登録した「ふるさと」は変更できないものとする。
- ふるさと選手制度の活用については、原則として、1回につき2年以上連続とし、利用できる回数は2回までとする。
- 「ふるさと」から参加する選手は、開催基準要項細則第3項-(1)-(1)-③(国内移動選手の制限)に抵触しないものとする。

参加申込責任者欄

押印 or サイン

参加資格確認書をチェックのうえ参加申込システムへ入力したことを証明します。

参加資格確認書の記入について

《監督・成年選手用》 《少年選手用》

～記入者の皆さんは黒太線枠内の記入をしてください～

○競技名…自分の競技名を記入してください。

○種目、階級等…出場種目、階級等を記入してください。監督は必要ありません。

- ・レスリング→グレコローマンスタイル 60kg 級 (G60kg 級 と略してもいいです)
- ・陸上競技→走幅跳
- ・馬術→自由演技馬場馬術 ホースマネージャー など
- ・バレーボール→種目、階級等がないため未記入でいいです。

○性別…該当するものに☑をしてください。

○氏名、フリガナ…中央競技団体等で登録されている氏名を正確に記入してください。

タカハシの『高』『高』、ヤマザキの『崎』『崎』、サイトウの『斉』『斎』『齊』『齋』

○生年月日…西暦で記入してください。

※競技及び種目によって参加可能年齢が違うため、生年月日に誤り等があると内容によっては参加資格違反となり、団体戦ではチーム全体が参加資格違反となる可能性があります。
また個人ではその選手が参加資格違反となる可能性があります。
なお、前年度の生年月日と異なって登録してしまうと別人として扱われてしまいます。

○学校名又は所属クラブ名…《少年選手用》のみ

学校名で出場する場合は○○高等学校で記入し、学年を記入してください。
クラブとして出場する場合はクラブ名を正式名称で記入してください。
なお、プログラム上では高等学校など略さずに記載するよう日本スポーツ協会から指導されています。ただし報道発表時は極力短くしなければならぬため、高校等の表記となります。

○勤務先・所属先…《監督・成年選手用》のみ

株式会社など略さずに正式名称で記入してください。
中学校、高校などに勤務している方は教諭か学校職員のどちらかに○をつけてください。※講師の方は教諭となります。

○緊急時連絡先…新型コロナウイルス感染症対応のため、連絡先（電話・メールアドレス）を記入してください。

～監督（選手兼監督含む）のみ～

○指導者資格名 … 日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者資格名を記入してください。

競技名は不要です。上級コーチ、コーチなどのみで記入してください。

○指導者資格登録 No … 7桁で記入してください。

○競技別必要資格名、No 等 … 競技毎に監督する際に必要な資格等ありましたら記入してください。
番号も同様です。

《監督・成年選手用》 《少年選手用》

1. 過去2大会の参加状況について該当項目に☑をつけてください。

○参加状況

…県予選会（県民体育大会や競技団体が指定する選考会、選考大会）に出場しているか。

東北総体（冬季大会はありません。）に出場しているか。

国体（国民体育大会）に出場しているか。

なお、東北総体又は国体において予備登録してされている場合は『出場した』になります。

○参加都道府県

…過去2大会に、秋田県以外の都道府県から出場した場合は、その所属した都道府県名を記入してください。

※ 県予選会等の参加履歴については通常、過去2大会で他県からの参加歴がある場合は県を変えて出場することができません。

特例措置及び制度を使用する場合のみ参加可能となります。

2. 特例措置及び制度を使用する場合に記入してください。

県予選会及び東北総体を含め、過去2大会に他県選手団として出場しており、今年度秋田県選手団として出場するために、以下のA～Dの特例措置制度を使用する場合は該当項目に☑をつけてください。

…過去2年間のうち、直近大会で他県選手団として出場した場合、以下の特例措置制度を使用しなければ、本県選手として出場することはできません。

成年選手…『新卒業者』、『結婚・離婚』、『ふるさと』、『震災特例』

少年選手…『新卒業者』、『結婚・離婚』、『一家転住』、『JOC アカデミー』、『震災特例』

3. 今年度の国体・東北総体に出場するにあたり、該当する項目ア～ウ(少年選手はエまで)に☑をつけて、市町村名等を記入してください。

※成年選手のウの場合、ふるさと登録した卒業学校名を記入する。

※少年選手のエの場合、卒業または転校する前の学校名を記入する。

…競技団体の指示に従い、該当するア～ウ(エ)に☑をし、市町村名を記載してください。特に指示が無い場合、成年選手は“ア”、少年選手は“イ”に☑をし、市町村を記載してください。

『エ, JOC エリートアカデミーに係る特例措置』に記入する場合は県内の卒業小学校又は中学校名を記入してください。

令和3年度 参加資格確認書 <<少年選手用>>

① ↓ ↓ ↓ 太枠内①～④について、よく読み正確に回答してください ↓ ↓ ↓

競技名	種目 階級 等	
フリガナ	生年月日	西暦 年 月 日 生まれ
氏 名	性別	男性 ☐ 女性 ☐
学校名 又は 所属クラブ名	※略式名称は厳禁 必ず正式名称記載 在学(年生)	
緊急時連絡先 (保護者又は競技団体可)	電話番号:	メールアドレス: @

1. 過去2年間における国体・東北総体・県予選会の出場履歴について記入してください

②

年度	競技会	該当する箇所にチェック☐	秋田県以外の都道府県から出場した場合
令和2年度	国体	☐ 出場した or ☐ 不出場	出場した時の所属都道府県名 _____
	東北総体	☐ 出場した or ☐ 不出場	
	秋田県予選会	☐ 出場した or ☐ 不出場	
令和元年度	国体	☐ 出場した or ☐ 不出場	出場した時の所属都道府県名 _____
	東北総体	☐ 出場した or ☐ 不出場	
	秋田県予選会	☐ 出場した or ☐ 不出場	

会場 令和2年度 ―― 本会期: 鹿児島県 スキ-競技会: 秋田県 スカ-ト・7休: 愛知県・岐阜県 東北総体: 山形県
(開催県) 令和元年度 ―― 本会期: 茨城県 スキ-競技会: 北海道 スカ-ト・7休: 北海道 東北総体: 福島県

2. 特例措置及び制度を使用する場合に記入してください ※参加申込責任者は必ず事前に県スポーツ協会へ確認

③

使用する特例措置・制度名	☐ 新卒業者(卒業校名: _____) ☐ 結婚・離婚 ☐ 一家転住 ☐ JOCアカデミー ☐ 震災特例
参加申込責任者記入欄 (使用にあたり補足説明)	

3. 所属区分について、該当する項目ア～エに☑し、市町村名等を記入してください

④

選択肢	市町村名等	内容 (必ず一読のうえ確認ください)
☐ : ア 居住地を示す現住所	市町村名記入	今年度の4月30日以前から競技会終了時まで、引き続き居住地が秋田県内にあり、生活していること。確認が必要な場合は住民票に記載の日付を確認してください。
☐ : イ 学校所在地	市町村名記入	今年度の4月30日以前から競技会終了時まで、引き続き在籍している学校所在地が秋田県内で週5日通学していること。休学中や通信制、高専、別科は対象外です。
☐ : ウ 勤務先	市町村名記入	今年度の4月30日以前から競技会終了時までの勤務先(実際に通勤し、その会社と雇用関係がある職場)の所在地が秋田県内であること。
☐ : エ JOCエリートアカデミーに係る特例措置	小学校名記入	予選会から競技会終了時まで在籍し、次のいずれかに該当すること。 ・卒業した小学校の所在地が秋田県内である ・アカデミー入校時が小学生の場合、その小学校の所在地が秋田県内である

※参加資格の詳細は、日本スポーツ協会・国体参加資格、年齢基準等の解釈説明、「日常生活」ならびに「主たる勤務実態」の考え方を参照

参加申込責任者欄 (選手は記入しないでください)

押印 or サイン

参加資格確認書をチェックのうえ参加申込システムへ入力したことを証明します。

【様式2】 ☆ ☆ 必ず本人自筆(ボールペン)のうえ、申込責任者が確認し提出すること ☆ ☆

令和3年度 参加資格確認書 <<監督・成年選手用>>

①

↓↓↓ 太枠内①～④について、よく読み正確に回答してしてください ↓↓↓

競技名		種目 階級等	
フリガナ		生年月日	西暦 年 月 日 生まれ
氏名		性別	男性 ☐ 女性 ☐
勤務先又は所属先	※略式名称は厳禁 必ず正式名称記載 在学(年生)・教諭・学校職員		
緊急時連絡先	電話番号: メールアドレス: @		
監督⇒⇒	区分	☐ 専任 or ☐ 兼任	指導者資格名 (監督資格)
	指導者資格 登録No.(7桁)		その他 競技別必要資格名、No.等

1. 過去2年間における国体・東北総体・県予選会の出場履歴について記入してください

②

年度	競技会	該当する箇所にチェック☐	秋田県以外の都道府県から出場した場合
令和2年度	国体	☐ 出場した or ☐ 不出場	出場した時の所属都道府県名 _____
	東北総体	☐ 出場した or ☐ 不出場	
	秋田県予選会	☐ 出場した or ☐ 不出場	
令和元年度	国体	☐ 出場した or ☐ 不出場	出場した時の所属都道府県名 _____
	東北総体	☐ 出場した or ☐ 不出場	
	秋田県予選会	☐ 出場した or ☐ 不出場	

会場 令和2年度 —— 本会期：鹿児島県 スキ-競技会：秋田県 スカ-ト・アイス：愛知県・岐阜県 東北総体：山形県
(開催県) 令和元年度 —— 本会期：茨城県 スキ-競技会：北海道 スカ-ト・アイス：北海道 東北総体：福島県

2. 特例措置及び制度を使用する場合に記入してください ※参加申込責任者は必ず事前に県スポーツ協会へ確認

③

使用する特例措置・制度名	☐ 新卒業者(卒業校名: _____) ☐ 結婚・離婚 ☐ ふるさと ☐ 震災特例
参加申込責任者記入欄 (使用にあたり補足説明)	

3. 所属区分について、該当する項目ア～ウに☐し、市町村名等を記入してください

④

選択肢	市町村名等	内容 (必ず一読のうえ確認ください)
☐ : ア 居住地を示す現住所	市町村名記入	今年度の4月30日以前から競技会終了時まで、引き続き居住地が秋田県内にあり、生活していること。確認が必要な場合は住民票に記載の日付を確認してください。
☐ : イ 勤務先	市町村名記入	今年度の4月30日以前から競技会終了時までの勤務先(実際に通勤し、その会社と雇用関係がある職場)の所在地が秋田県内であること。
☐ : ウ ふるさと	卒業学校名記入	卒業した小学校、中学校又は高校の所在地が秋田県内にあり、そのいずれかを登録する。 ※登録は別途競技団体を通じ手続きを行う ※専修学校など(例：秋田公立美術大学附属高等学院)は不可

※参加資格の詳細は、日本スポーツ協会・国体参加資格、年齢基準等の解釈説明、「日常生活」ならびに「主たる勤務実態」の考え方を参照

参加申込責任者欄 (選手・監督は記入しないでください)

押印 or サイン

参加資格確認書をチェックのうえ参加申込システムへ入力したことを証明します。

(様式1) 選手は7月4日受付で提出、それ以外の方は来場したらすぐに受付に提出

健康調査票 (選手・コーチ・競技役員共通)

成年男子	女子	少年男子	監督・コーチ・引率	審判員	競技役員

階級	級	氏 名
県名	県	
所属	連絡先	(本人の携帯番号)

◎ 自身で下記症状の有無について記載してください。(練習直前または当日朝に記入)

月日(曜日)	6/21(月)	6/22(火)	6/23(水)	6/24(木)	6/25(金)	6/26(土)	6/27(日)
練習							
練習場所							
「その他」の練習場所							
測定した時間							
体 温							
※ 強いだるさ							
※ 息苦しさ							
のどの痛み							
くしゃみ							
咳							
たん							
味覚の変化							
嗅覚の変化							
その他 (嘔吐・腹痛・下痢等)							

月日(曜日)	6/28(月)	6/29(火)	6/30(水)	7/1(木)	7/2(金)	7/3(土)	7/4(日)
練習							
練習場所							
「その他」の練習場所							
測定した時間							
体 温							
※ 強いだるさ							
※ 息苦しさ							
のどの痛み							
くしゃみ							
咳							
たん							
味覚の変化							
嗅覚の変化							
その他 (嘔吐・腹痛・下痢等)							
過去14日以内に同居家族、身近な知人、所属チームに感染が疑われる方がいる						1 いる	2 いない
過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある						1 ある	2 ない

上記選手の体調等に問題はありません。

所属チーム責任者サイン：

※出場選手は上記に署名をもらい、提出してください。

令和3年度（第72回）県民体育大会柔道競技 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

1. 大会日程について

（1）日程

令和3年7月4日（日） 10：00～ 成年男子
女子・少年男子

（2）計量

女子計量会場：柔道場師範室

女子非公式計量 7月4日（日） 8：00～8：30

女子公式計量 7月4日（日） 8：30～9：00

男子計量会場：柔道場

男子非公式計量 7月4日（日） 8：00～8：30

男子公式計量 7月4日（日） 8：30～9：00

（3）審判・監督会議

令和3年7月4日（日） 9：00～ 柔道場師範室

2. 試合会場について

秋田県立武道館柔道場の第2試合場と第3試合場にて試合を行う。

3. 入場制限について

（1）無観客

観客の入場を認めない。

（2）入場を認める参加者

出場選手のみとする。

所属の監督・コーチ及び引率（高校）については、事前に大会事務局へ届け出ること。

（3）入場を認める大会関係者

大会競技役員（補助員含む）以外は原則入場を認めない。

4. 健康調査票等の提出及び検温の実施について

（1）健康調査票の提出

すべての参加者及び大会関係者に入場時、健康調査票（様式1）の提出を求める。

（2）検温

すべての参加者及び大会関係者に入場時、検温を実施する。

（3）参加のとりやめ

健康調査票（様式1）の提出に不備がある場合、また、記載内容に問題がある場合、
検温に異常が認められた場合は、大会への参加を認めない。

5. 練習について

（1）成年男子 9：00～ 9：20

（2）女子 9：00～ 9：20

（3）少年男子 9：30～ 9：50

6. マスクの着用について

すべての参加者及び大会関係者に常時マスク着用を義務づける。ただし、選手の試合及び練習についてはこれを除外する。

7. 手指消毒及び周辺施設の消毒について

(1) 入場時の手指消毒

すべての参加者及び大会関係者に対し、入場時の手指消毒を義務づける。

(2) 入場後の手指消毒及び周辺施設の消毒

入場後、会場内においても適宜手指の消毒を求める。そのため、消毒液を入り口各所に設置するとともに、参加者に消毒液の持参を依頼する。また、共有する施設については、員が適宜巡回のうえ、消毒を行う。

(3) 試合会場の消毒

定期的に試合場（畳）の消毒を行う。

8. 身体的距離の確保について

参加者は、常時適切な身体的距離を確保し、行動するようにする。

9. 試合前、試合中の選手、コーチの行動について

(1) 試合前

①選手は各自手指消毒を行う。

②選手は試合場でマスクを外してケースに入れる。（ケースは各自で準備）

(2) 試合中

①試合中、選手には大きな発声をしないよう、自粛を求める。

②会場内において、大きな声での会話や応援をしないこととする。特に試合中のコーチによる大声での指示や指導は大会申し合わせ事項により、禁止とする。

10. 柔道衣コントロールについて

(1) 柔道衣コントロール

審判員が目視によりコントロールを行う。なお、疑義が生じた場合は各試合場において、審判員が測定器具を用いて検査を行う。規格に不適合と判断された場合は、「失格」となることを理解のうえ、選手・コーチは責任をもって規格に適合しているか事前に確認すること。

(2) 赤白帯

試合をする際の赤白を示す赤白の帯について、各自が赤白それぞれの帯を持参することを義務付ける。感染防止の観点から大会事務局では準備しない。

12. 選手への対応について

選手は受付に健康調査票（様式1）を提出する。選手の試合参加の判断は、以下の入場プロトコールにより判断する。

＜選手の試合参加の入場プロトコール＞

	内 容	試合参加
1	健康記録表や誓約書を提出しない	×（不可）
2	試合や計量当日に発熱（37.0度以上）や諸症状がある。	×（不可）
3	試合前2週間のうち、最初の1週間で連続する3日以上発熱（37.0度以上）や諸症状があった。	×（不可）
4	試合・計量3日前から発熱（37.0度以上）や諸症状がある（あった）	×（不可）
5	試合前2週間のうち、最初の1週間で連続した2日以内の発熱（37.0度以上）や諸症状があった。	○（可）
6	試合前2週間のうち、後半の1週間で4日前までの1日だけに発熱（37.0度以上）や諸症状があった。	○（可）

・試合前3日以降に有症状者と練習をしていた選手の出場は不可と判断します。

・発熱の基準は、37.0度以上とする。ただし、平熱が37.0度前後の場合は、平熱+0.5度までは参加を認める。平熱は直前2週間の平均値とする。

- ・試合前に濃厚接触者が所属チーム内で出た場合、チームは練習を中止して、全日本柔道連盟に連絡をすること。チームは2週間の練習中止が原則となる。濃厚接触者の感染が確定した場合は感染確定日から2週間の練習休止が確定する。この期間に試合日や計量日が含まれる場合、試合に参加することはできない。濃厚接触者の感染が否定された時点で、濃厚接触者以外のチーム構成員は中止前の段階から集団練習を再開できる。しかし、濃厚接触者は濃厚接触者と確定された日から2週間はチームのいかなる練習や大会にも参加できない。試合前2週間のうちに濃厚接触者と練習をした者は、主催者が入場プロトコールにより参加の是非を判断する。

13. コーチ・大会競技役員への対応について

健康調査票（様式1）を提出してもらいます。

14. 審判員への対応について

健康調査票（様式1）を提出してもらいます。

（1）マスクの着用について

審判中もマスクを着用する。試合場に上がらない審判委員もマスクを着用する。

（2）試合中の位置取り

審判同士や選手とは、十分な距離（少なくとも2 m以上の距離）をあけるが、技の判定の判断には近接での判断が必要な場合もあるので、臨機応変に対応する。

（3）試合中のコーチ・選手のコントロール

コーチや選手が試合場で大声を出して、応援や指示をする場合には、厳しくコントロールする。

（4）試合場の清掃、消毒

試合場が出血や汚物などで汚れた場合は、審判印の指示で係員が必要に応じて清掃・消毒を行う。